

41. 基準カラーコードによる色彩嗜好の分析

東京家政学院短大 今井 弥生

1. 女子大学生の嗜好色と着用色の継年的な変遷は、色研記号に基いて調査し発表したが、これまでは色名による分類が主であり究明できなかった点が残されていた。

今回はこれらの傾向を明らかにするために、基準カラーコードに従って分析し、再検討した。

2. 対象は当短期大学に昭和31年度から35年度までの学生1647名であり、時期は入学当時の4月と翌年2月の晴天に行なった。試料は日本色彩社発行の97標準色を用い、質問紙法により選出させた色票を年度ごとに集計し、更に基準カラーコードに翻訳した。

3. 基本分類(16種)の中、5年間を通じてブルー圏・レッド圏・ブラック圏・ブラウン圏・ピンク圏が好まれオレンジ圏・オリーブ圏が最低であった。

大分類(29種)を年度ごとにみると、31年度バイオレット系・32年度レッド系・グリーン系、33年度ブルー系・34年度ピンク系・メディアムグレー系、35年度ベージュ系・オリーブグリーン系、36年度ブラウン系・ブルー系等が他の年度よりも高い率を示し、流行色の影響がみられた。又嗜好色と着用色は大体並行していた。

なおピンク系・ローズ系・ゴールド系・オリーブ系は季節の影響がない。顕著なものはブラウン系・ベージュ系・スカイ系・ブルー系・ラベンダー系・ホワイト系・ライトグレー系・ブラック系等であることが判明した。